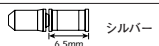
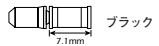


安全のために必ずお守りください。

警告

- 乗車前に車輪が固定されていることを確認してください。転倒して大怪我をすることがあります。
- チェーンの洗浄には中性の洗浄液を使用してください。サビ落とし等のアルカリ性あるいは酸性の洗浄液を使用するとチェーンにダメージを与え、チェーン切れを起こす場合があります。
- ナロータイプチェーンは必ずアンブルタイプ・コネクティングピンで連結してください。
- 2種類のアンブルタイプ・コネクティングピンがありますので、ご使用前に必ず下記の表でご確認ください。

チェーン	アンブルタイプコネクティングピン	工具
CN-7701 / CN-HG93 の様な9段対応 スーパーナローチェーン	 シルバー 6.5mm	TL-CN32 / TL-CN27
CN-HG50 / CN-HG40 の様な8、7、6段対応 ナローチェーン	 ブラック 7.1mm	TL-CN32 / TL-CN27

- スプロケット構成の変更などでチェーンの長さを再調整する必要がある場合は、アンブルタイプ・コネクティングピンおよびエンドピンで連結されている箇所を切断してください。アンブルタイプ・コネクティングピンやエンドピンで連結された箇所を切るとチェーンを損傷します。

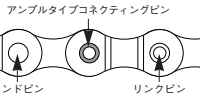
- チェーンの伸び具合や損傷がないかどうか点検してください。伸びたり損傷があった場合には交換してください。チェーンが切れて転倒することがあります。

- CN-7701、CN-HG93、CN-HG73シマノ製チェーンには9段用チェーンに対応するフロントチェーンホイールを使用してください。8段用あるいはそれ以下の段数に対応するフロントチェーンホイールに使用された場合、フロントチェーンホイールの変速不良やチェーンのピン抜けによるチェーン切れの原因になる恐れがあります。

- 製品を取付ける際は、必ず取扱説明書等に示している指示を守ってください。その際、シマノ純正部品の使用をお勧めします。またボルトやナット等が緩んだり、破損しますと突然に転倒して重傷を負う場合があります。

- 製品を取付ける際は、必ず取扱説明書等に示している指示を守ってください。調整が正しくない場合、チェーン外れ等の発生により、突然に転倒して重傷を負う場合があります。

- 取扱説明書はよくお読みになった後、大切に保管してください。



使用上の注意

- 変速操作がスムーズに出来なくなった場合には変速機を洗浄し、作動部に注油してください。
- リンク部のガタが大きくなくなって変速調整が出来なくなった場合には変速機を交換してください。
- 定期的に変速機を洗浄し作動部（メカニズム部及びプリー部）に注油してください。
- 変速調整が出来ない場合には、車体の後ろエンドの平行度の確認、ケーブルの洗浄及びグリスアップとアウターケーブルが長すぎたり短かすぎたりしていないかを確認してください。
- プリー部のガタが大きくなって、走行時、非常に雑音がるさくなった場合は、プリーを交換してください。
- 車輪の回転が重くなった場合はグリスアップを行ってください。
- ハブの内部には注油は行わないでください。グリスが流れ出します。
- ギアは定期的に中性洗剤で洗浄し注油してください。また、チェーンの中性洗剤での洗浄及び注油も、ギア及びチェーンの寿命を延ばすのに効果があります。
- チェーン飛びが発生するようになった場合はギアとチェーンを交換してください。
- インナーケーブル内蔵式フレームでは、ワイヤー効率が悪くSISが働きにくいので、ご使用できません。
- ギアは必ず同じグループ刻印のセットで使用し、別グループ刻印のギア板を組み合わせて使用しないでください。
- アウターケーブルはハンドルを一杯に操舵しても余裕がある長さのものをご使用ください。また、ハンドルを一杯に操舵した時に変速レバーがフレームに接触しないことを合わせて確認してください。
- 変速ケーブル（SIS-SP41）には専用グリスを使用しています。DURA-ACEグリスや他のグリスを使用すると変速機能が低下します。
- インナーケーブルとアウターケーブルの摺動部分がグリス潤滑された状態で使用してください。
- 円滑な操作のため、SIS-SPシールドケーブル、B.B.ガイドをご使用ください。
- 変速に関係するすべてのレバー操作は、必ずフロントチェーンホイールを回しながら行ってください。
- オイルディスクブレーキのブレーキ液の種類によってはブレーキ液が変速レバーの樹脂部分に付着した場合、樹脂部分に亀裂が入ったり変速する可能性がありますので、ブレーキ液が付着しないようにしてください。
- シマノディスクブレーキに使用されている鉱物油は樹脂部分に付着した場合に亀裂、変色の恐れはありませんが、ゴミ等の付着を予防する為にアルコールで洗浄してください。
- インジケータ部及びシフティングレバーユニットの分解はしないでください。故障の原因となります。
- 通常の使用において自然に生じた摩耗および品質の劣化は保証いたしません。
- 取扱方法及びメンテナンスについて疑問のある方は、購入された販売店にご相談ください。



ご使用方法

SI-6PZRA-003

リアドライブシステム

機能を十分に発揮させるために、次のラインナップによる使用を推奨いたします。

シリーズ	SLX
ラピッドファイヤー（シフティングレバー）	SL-M660
アウターケーブル	SIS-SP41
リアディレイラー	RD-M662
タイプ	SGS / GS
フリーハブ	FH-M665
スピード	9段
カセットスプロケット	CS-HG80
チェーン	CN-HG73
B.B.ガイド	SM-SP17

この取扱説明書は、ご購入された自転車に装着されているシマノ製自転車部品の取扱方法を説明しています。ご購入された自転車およびシマノ製自転車部品以外に関するご質問はご購入先または自転車製造元へのお問い合わせをお勧めいたします。



製品改良のため、仕様の一部を予告なく変更することがあります。

お客様相談窓口

☎ 0570-031961 Fax. 072-243-7847

株式会社 シマノ

〒590-8577 堺市南区杉町3丁目77番地

仕様

リアディレイラー

モデルナンバー	RD-M662		
タイプ		SGS	GS
スピード	9段		
トータルキャパシティ	45T	33T	
リア最大ギア	34T	34T	
リア最小ギア	11T	11T	
フロント歯数差	22T	22T	

カセットスプロケット歯数構成

モデルナンバー	グループ名	スピード	歯数構成
CS-HG80	ar	9段	11、12、14、16、18、21、24、28、32T
	au	9段	11、13、15、17、20、23、26、30、34T

この説明書ではラピッドファイヤーSL-M660をトップノーマルタイプの後変速機RD-M662と組み合わせた場合の操作方法を説明しています。逆スプリングタイプの変速機と組み合わせた場合は変速操作およびインジケータ表示は反対になります。

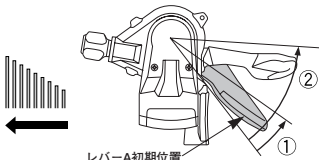
変速操作方法

解除レバーを押しても引いても解除操作ができる2ウェイリリース機構が備わったレバーです。

レバーA、Bとも変速完了後、指を離すと必ずレバー初期位置に戻るようになっています。レバー操作する時は必ずクランクを廻しながら行って下さい。

小ギアから大ギアへの変速（レバーA）

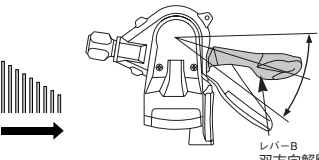
1段だけ変速する場合は①の位置まで操作し、2段分変速する場合は②の位置まで操作するという具合に、変速したい段数分のストロークを操作します。



レバーA初期位置

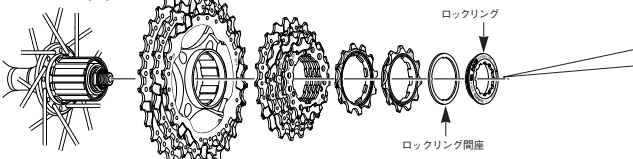
大ギア從小ギアへの変速（レバーB）

1回操作して離すと、大ギアから小ギアへ1段変速します。

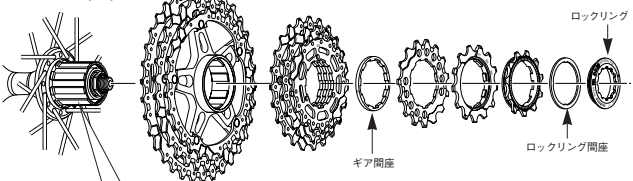
レバーB
双方向解除
(2ウェイリリース)

ギアの取付け

CS-HG80 (ar)



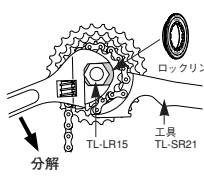
CS-HG80 (au)



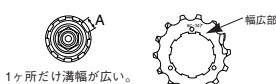
ギアの取付けは専用工具（TL-LR15）でロックリングを締め付けます。

締め付けトルク：
30 - 50 N・m [300 - 500 kgf・cm]

ギアの交換は、専用工具（TL-LR15）とTL-SR21でロックリングを取り外します。



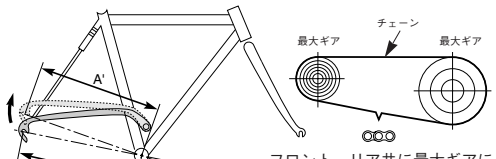
各ギアとも刻印のある面をトップ側にし、フリーホイール部のA部（溝幅が広いところ）と各ギアの幅広部を合わせてセットします。



1ヶ所だけ溝幅が広い。

リアサスペンション付き自転車におけるチェーンの長さ

リアサスペンションが作動することにより、A寸法が変化します。このためチェーン長さが不足していると、駆動関係に異常な力が加わることがあります。チェーン長さは、リアサスペンションが作動してA寸法が最長に伸びたところで、チェーンを前後最大ギアに掛け、2リンク加えた長さに設定してください。リアサスペンションの作動量が大きい場合、フロント最小ギアとリアのトップ側ギアでチェーンの緩みが取れないことがあります。



フロント、リア共に最大ギアにチェーンをかけた状態で2リンク加えてください。

レバー部の取付け

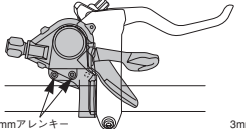
ハンドルグリップは最大外径がφ36mm以下のものをご使用ください。

締め付けトルク：
5 N・m [50 kgf・cm]

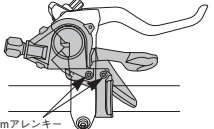
4mmアレンキー

このシフティングレバーはインジケータを使用しない場合ブレーキレバーの内側にも外側にも取付け可能です。位置調整をする場合はインジケータを外し、必ず2個の固定ボルトで止め位置を変更してください。

内側



外側

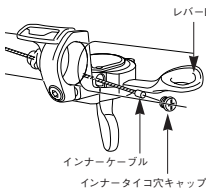


- ブレーキ操作と変速操作に支障をきたさない位置に取付けてください。
- ブレーキ操作に支障をきたす場合は組合せ使用しないでください。
- 推奨締め付けトルクにおいても、カーボンハンドルの場合には、ハンドルへの損傷ならびに固定不十分となる可能性があります。適切なトルク値に関しては、完成車メーカーまたはハンドルメーカーでご確認ください。

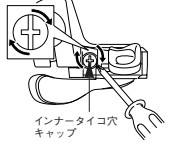
リアディレイラーの取付け及びSISの調整はRD-M662（リアディレイラー）の取扱説明書をご覧ください。

インナーケーブルの取付けと固定

レバーBを8回以上操作して、レバー位置がトップの位置にセットされているのをインジケータで確認します。インナータイコ穴キャップを取り外し、ケーブルを取付けます。

インナーケーブル
インナータイコ穴キャップ

インナータイコ穴キャップを図のように止まるまでまわして、取付けてください。これ以上まわすと、キャップのネジみぞを破損します。

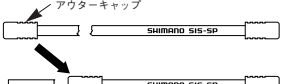
インナータイコ穴
キャップ

アウターケーブルの切断

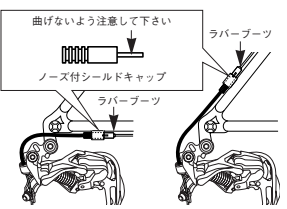
アウターケーブルを切断する場合には刻印の反対側を切断してください。切断後の端面は、外側を真円に戻し、穴の内側を整えてください。



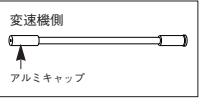
アウターケーブルキャップは、切断後も同一物を使用して下さい。



ノーズ付シールドキャップ及びラバーブーツはフレームのアウターストッパーに取付けて下さい。

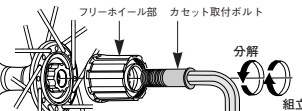


*リアサスペンション自転車等で、リアディレイラーの動きが激しい場合には、付属のアルミキャップとの交換をお勧めします。アウターケーブルはアルミキャップがついた方を変速機側に使用してください。

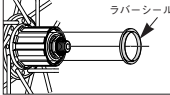
変速機側
アルミキャップ

フリーホイール部の交換

ハブ軸を抜き取った後、フリーホイール部内のカセット取付ボルトを取り外し、フリーホイール部を交換してください。



締め付けトルク：
35 - 50 N・m [350 - 500 kgf・cm]



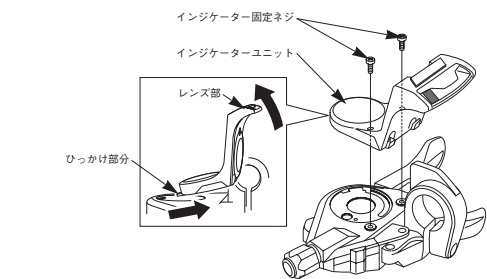
ご注意：フリーホイール部の分解は、トラブルの原因となりますので行わないでください。

インジケータ部の交換と組立

分解及び組立は、インジケータ部の取り外しまたは交換時のみ行ってください。フロントの場合、取り外し・組立の際の回転方向と指針位置は逆になります。

【取り外し】

1. インジケータを固定しているインジケータ固定ネジを2本とも外します。
2. インジケータユニットを図のようにレンズを持ち上げ、ひっかけ部分を抜き、上に外します。



【組み付け】

3. レバーBを8回以上操作して、レバー位置をトップにセットします。
4. インジケータ指針が左端にあることを確認し、インジケータ下のピンとインジケータの突起部（1ヶ所）をシフティングユニットの△印に合わせて、取り外し時と同様に傾けて先に突起部を入れた後、ピンを差し込み、図のようにセットします。
5. インジケータ固定ネジ2本で締め付けます。
6. 作動を確認してください。正しく作動しない場合は3と4に注意して再度組み立ててください。

締め付けトルク：
0.2 N・m [2kgf・cm]

＜インジケータを取付けない場合＞

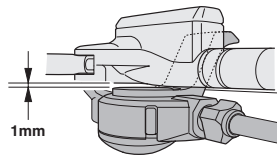
1. インジケータユニットにセットされているインジケータ取付け部保護カバーを図のように爪の短い方から取り外してください。
2. インジケータ取付け部保護カバーを図のように凸部を△印でない凹部に先に入れ、シフティングレバーユニットの上部にセットし、インジケータ固定ネジで締め付けます。



締め付けトルク：
0.2 N・m [2kgf・cm]

ご注意

指針動作に支障をきたす恐れがありますので、インジケータカバー部分にブレーキレバーを押しつけないでください。



1mm